

地域商店街
ポイント事業

熊本県玉名市



2005年(平成17)10月、玉名市、岱明町、天水町、横島町の1市3町による玉名市が誕生。人口は67,160人(2018年2月末日現在)。菊池川の恩恵を受け発展してきた農業、水運を活かして栄えた商業、温泉、干拓地、みかん畑や石垣、古墳文化など、自然の恵みや歴史に裏付けられた「味わい深い」景観が特徴。

商店街、金融機関、行政が手をたずさえて 「自治体ポイント」を活用して 地域経済に好循環を生み出す

商店街のポイントカードに自治体ポイントを付与できるようにして、これまでに約10億円規模の地域通貨として顧客に還元してきた「たまなスタンプ会」。今回、総務省が進める「マイキープラットフォーム」を活用して、マイナンバーカード1枚でポイントを管理する実証事業が始まった。市長をはじめとする同事業のキーマンたちにお話を伺った。

聞き手 ● 柏木正博 本誌発行人 構成 ● 丸山貴未子 撮影 ● 的野季生

日本遺産に認定された 二千年にわたる米作り

初めて玉名に伺いましたが、街並みがきれいですね。

藏原 景観条例で規制しているエリアもありますから、そういう意味では街並みの美しさは保たれていると思います。玉名はも

ともと歴史のある地域なんです。市の中心を流れる菊池川流域には弥生時代の遺跡が残っていますし、川の豊かな恵みを受けて農業や商業が栄えてきました。良質な温泉も有名で、夏目漱石の『草枕』は玉名市の小天温泉を舞台に書かれた作品です。商業が盛んだっただんですか。

稲田 市の中心部に高瀬という地区がありますが、米蔵が多く、かつては熊本の米を関西方面に廻船で運ぶ拠点となっていたようです。

藏原 米の相場は高瀬で決まるといわれるほど栄えていました。

沼田 私たち熊本中央信用金庫(以下中央

信金)の前身も高瀬にあった「高瀬町信用組合」でした。最近、商業施設として再生された旧い商家「高瀬蔵」の近辺と聞いています。あの建物は高瀬が栄えていた頃のシンボルですね。

藏原 そういった歴史を踏まえて、菊池川流域の4市町(玉名市、山鹿市、菊池市、

左から
稲田武志さん
協同組合たまなスタンプ会
理事長
沼田雄一さん
熊本中央信用金庫 理事長
藏原隆浩さん
玉名市 市長
柏木正博
聞き手(本誌発行人)



和水町)が共同で作成したストーリー「二千年にわたる米作り」が、昨年「日本遺産(文化庁)」に認定されました。この大切な歴史を活かしながら、まちづくりを進めなければなりません。

沼田 来年は当地出身の金栗四三先生を主人公にしたNHK大河ドラマ『いだてん』も始まります。全国から玉名が注目されることになりそうです。

年間2500万ポイントが動く ハローポイントは地域の第2通貨

市長は政策として「地域内循環経済」を大きく打ち出していらっしゃると伺いました。

藏原 最近は郊外の大型ショッピングセンターやインターネットで買い物する人が増えていますが、やはり地域の中でお金が循環する仕組みをつくっていききたい。「マイキープラットフォーム構想」もその一つとして力を入れていきたいと考えています。

「マイキープラットフォーム構想」は総務省のマイナンバーカード活用策の一つとして始まった事業ですね。

藏原 玉名市はその実証実験に参加しています。マイキーと呼ばれるマイナンバーカードのICチップの空きスペースを活用して、クレジット会社のポイントや航空会社

1 高瀬船着場跡。菊池川へ突出する石量があり、蔵出し俵は「俵ごろばかし」と呼ばれる石敷きの坂をころがして、停泊中の船へと積み込まれ大坂堂島の蔵屋敷へ納められた。

2 江戸時代、熊本、八代、川尻、高橋と並んで藩の五カ町に数えられた高瀬の街並みには、昔からある酢屋、味噌屋、高瀬船屋などの商店が立ち並び、歴史の重みが残る。



のマイルを自治体ごとのポイントに変換して、その地域の商店や公共施設で利用できるようにしようという試みです。

クレジットカードのポイントや航空会社のマイルは年間4000億円発行されているものの、そのうち3、4割が使われないまま期限切れを迎えるそうです。それを有効活用して地域経済を活性化させようというわけです。